

BLUE BACKS

身近な自然の つくり方

庭や窓辺に生き物を呼ぶ法

藤本和典

Fujimoto Kazunori



N.D.C.470.76 174p 18cm

ブルーバックス B-1167

み ぢか し ぜん かた
身近な自然のつくり方
庭や窓辺に生き物を呼ぶ法

1997年 4 月20日 第 1 刷発行

著者 ふじもとかずのり
藤本和典
発行者 **野間佐和子**
発行所 **株式会社講談社**
〒112-01東京都文京区音羽2-12-21
電話 出版部 03-5395-3524
販売部 03-5395-3626
製作部 03-5395-3615
印刷所 (本文印刷) **慶昌堂印刷株式会社**
(カバー表紙印刷) **双美印刷株式会社**
製本所 有限会社 **中澤製本所**

定価はカバーに表示してあります。

©藤本和典 1997, Printed in Japan

落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えます。なお、この本についてのお問い合わせは、科学図書出版部宛にお願いいたします。

国く日本複写権センター委託出版物)本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

ISBN4-06-257167-6(科)

BLUE BACKS

身近な自然の

方

書や窓辺に生き物を呼ぶ法

藤本和典

Fujimoto Kazunori





ISBN4-06-257167-6

C0245 ¥660E (0)



1920245006607

定価：本体660円

※消費税が別に加算されます。

鳥がさえずり、トンボが羽化する、
そんな環境が私にもできる！

- 第①章 身近な自然の見つけ方
- 第②章 身近に生き物たちのくる環境をつくろう
- 第③章 ガーデンビオトープの工夫
- 第④章 日本型ビオトープのすすめ



身近な自然のつくり方

庭や窓辺に生き物と呼ぶ法

藤本和典 著



ブルーボックス

- 装幀／芦澤泰偉
- カバー写真／藤本和典
- イラスト・図版／ゆきうさぎ
- 目次デザイン／ユー・エス・エス

まえがき

ビオトープということばをご存じでしょうか？ それではミニサンクチュアリは？ ビオトープとは、自然破壊が進み、生き物たちが続々と姿を消していったヨーロッパ、とくにドイツを中心として誕生したもので、「生き物たちが生活できる環境を復元させようという活動」のことです。そしてミニサンクチュアリは、このビオトープの思想をもとに、日本に合ったやり方で自然を復元させようという活動を表すことばとして誕生しました。

最近、雑誌や新聞などで特集が組まれるようになり、ビオトープの名が知られてきています。ミニサンクチュアリのほうはしだいに使用されることが少なくなってきましたので、本書ではビオトープということばを使用することにしますが、名前にこだわる必要はありません。身のまわりの環境にちよつとした工夫をしてやれば、生き物たちはみずからやってくる、そのことを理解して、できる範囲からまずはじめてみてほしいのです。

私が子供のころは、すぐ裏の雑木林に行けば、まだまだたくさん自然が見つかり、生き物と遊ぶのが楽しくて学校が終わるのを待っては飛んでいったものです。

ところがある日、その大切な林のなかの大きなクヌギが目の前で切り倒されてしまい、カブトムシを見つけた日々や、近くを飛ぶノコギリクワガタの羽音などは、遠い思い出となってしまいました。あの日の悔しい気持ちは、無意識のうちに、そのまま今の私の活動につながっているのではないかとあらためて思い返しています。

学生時代に自然保護活動にかかわるようになり、地元での活動や全国組織の会員になったりもしました。サラリーマンをしばらく経験した後に、財団法人日本野鳥の会の職員として、いわばプロの仕事で自然やその保護にかかわり、全国支部のリーダー研修を任されたり、鳥を呼ぶ庭づくり、ミニサンクチュアリキャンペーンの企画や運営を担当したりもして、全国の情報に触れる機会に恵まれ、そうした活動のなかであらためて身近な自然の大切さに気づかされました。

さまざまな経験を通してなによりも強く感じたことは、今のままの自然へのかかわり方ではやはりだめで、何とかしなければ自然はほんとうに取り返しのできないことになるということです。そんな思いから私は独立を決意し、四年前、シェアリングアース協会を設立しました。

自然保護活動が高まりを見せ、活動団体の会員数も増えてきているように思えますが、実態はすこし違います。私のところにも同じような活動やアンケートなどの依頼が別個の団体から舞い込んだりしますが、意識の高い人が複数の団体に重複参加しているというのが実状で、数多くあ

るといわれる自然保護団体にしてもその実数は半分以下なのではないでしょうか。大きな団体でもせいぜい数万人以下の規模にすぎません。それも、ここ三、四年は会員が増えずはば横ばいというのが現実なのです。欧米の自然保護団体の会員数は一〇〇万人以上と聞いていますから、自然に対する意識のち方には相当な差があるのです。

これには事情があり、欧米、とくにヨーロッパと日本との自然破壊の程度の違いがあげられます。欧米では、破壊し尽くされてしまった自然への反省から、人工的にこれを復興させようという意識の高まりがあり、ビオトープに代表される自然復活の活動が盛んにおこなわれています。それでもなかなか生き物が帰ってこないというのが実状です。一方日本では比較的緑が残っており、そうした生き残った緑のなかで生き物たちも生息しています。つまり、緑や生き物たちがそこそこ残っているというのが、かえって意識を低く抑えているという見方もできるのです。

しかし、このままでは自然を守るのに力不足ということになってしまいます。情報の発信の仕方や、法律や教育などの環境整備も必要でしょうが、やはり個人個人の自然への意識・関心を高めていくことが重要でしょう。イギリスでは、毎日の生活のなかで、「コマドリが裏庭で巣づくりをはじめたよ!」と子供がいえば、母親が「そういえば、先週からさえずりを聞いたわね」と答えるほど、日常会話で具体的に自然を語れるといわれます。ペットの飼い方一つとっても、自

然への配慮、ルールを守るような意識づけが学校教育に自然に取り入れられているそうです。

日本では、自然を守りましょうといっても、すぐに自然保護団体に参加するような人まで含めて、そのレベルの意識に達している人は少ないのです。まずは、自然好きを増やすことが大切ということでしょう。シェアリングアース協会を設立したのも、自然好きを一人でも増やしたい、そんな気持ちからでした。現在は、会報誌の発行、自然感察会（自然は感じて見るものだという考えから、私たちは観察ではなく、「感」察といっています）、講演会などをおこない、全国に会員がすこしずつ増えてきています。いきなり自然保護というような大きな活動をせず、まずは自然をみてみましょと、間口を広く、敷居を低くしたことで多くの人々に知られるようになったのはうれしいことです。

本書は、自然好きを一人でも多くし、身近な環境を見つめなおし、ちょっとした庭づくり、植栽の工夫など、できることからはじめようと呼びかけるために書いたものです。ビオトープということだけが先走ってしまい、紹介される内容が日本の実状にそぐわないことも多くなっています。生き物好きとして無理なくでき、そして楽しめるようにと考え、これまでの経験を活かして執筆しました。講談社K氏のナチュラルな生活を身近で、という言葉にそうことができたかどうかは、実際に本書の内容を実践された方に解答があるのではないかと思います。

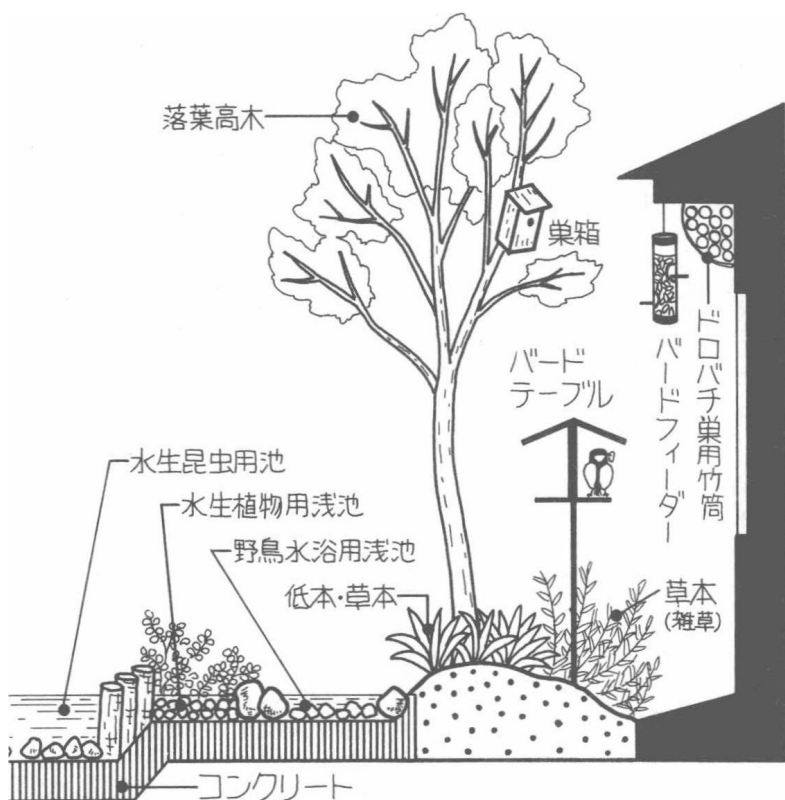
こんなことでできないよ、といわずに、すこしでも多くの人にはじめてもらいたいと思います。家族でも地域でも、できることからはじめれば、状況は確実に変わります。そこに住む生き物たちが着実に増えていくはずですよ。

すこし前に、校内暴力などで問題のある地域と緑が急激に減少している地域の地図を重ねると、ぴったり一致するという調査結果を見て、驚いたことがあります。人間の心と緑のあいだに大きな結びつきがあるというのは間違いないのでしょう。それがすべての原因ではないと思います。園芸会社の方から次のような話を聞いたこともあります。観葉植物など緑の鉢植えは、高層住宅やオフィスビルでは最上階から売れていくということです。部屋にいて、目の高さに緑がないと人間は不安になるので、それをすこしでも補おうとしているのではないかとのことでした。

身近に緑の鉢植えがあるだけでも、毎日の生活に潤いを与えてくれます。そこにたくさん生き物たちがやってきたら、とても楽しいことは間違いないと思います。みなさんもぜひ生き物のやってくる環境づくりをはじめてください。

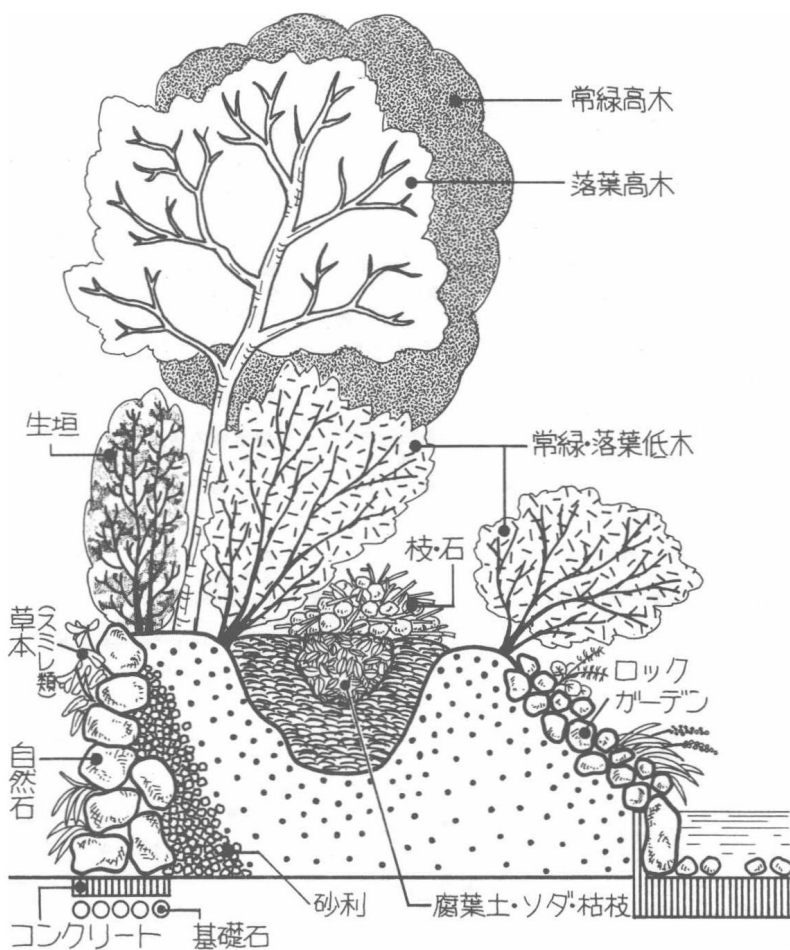
また、ビオトープの一つの例としての庭の全体図と、ビオトープのカレンダーをこの後につけました。この図は、本書で紹介する庭づくりの要素を一通り盛り込んだもので、ちょっと欲張った理想的なものです。実践の過程で参考にしてみてください。

生き物を呼ぶビオトープの庭のモデル例



草本：ギボウシ・スミレ類・カワラナデシコ・ヤブラン・ツユクサ・
ジャノヒゲ・ツワブキ・シュンラン・ミズヒキソウ

湿性・水生植物：セキショウ・セリ・クサヨシ・ハッカ・ミソハギ・
フトイ・ヨメナ・コウホネ・オモダカ・ウキクサ・
コナキ・ヒルムシロ・フサモ



常緑高木：スダジイ・クスノキ・モチノキ・ネズミモチ

落葉高木：エノキ・ムクノキ・コナラ・ハンノキ・ミズキ・
クサギ・カラスザンショウ・ヤマザクラ

常緑・落葉低木(生垣)：ニシキギ・ムラサキシキブ・ガマ
ズミ・イチイ・イボタノキ・サンショ

春			
●シオカラトンボ 現れる ●クロアゲハ、アオスジアゲハ 現れる ●テントウムシ、ハムシ、タテハチョウ冬眠からさめる ●アリ活動始める ●モンシロチョウ 現れる ●アブラコウモリ活動始める ●アシナガバチ活動始める ●ヤマトシジミ現れる ●ヤモリ活動始める ●ナミアゲハ現れる ●トカゲ、カナヘビ活動始める ●カマキリ孵化 ●ヒキガエル産卵 ●カタツムリ活動始める ●スズメ、シジュウカラ 番子巣立つ カワラヒワ初鳴き ●オナガ巣づくり始める ●シジュウカラ巣づくり始める ●ジョウビタキ去る ●ツバメ現れる ●ツグミ去る ●小鳥類庭先から数が減る ← 渡り鳥通過 → (シギ、チドリ、ヒタキ類) ← キツタ、ヤツデの実に鳥がくる → ●スマレ、フジ開花 ●ソメイヨシノ開花			自然の動き
●給餌台の片づけ ●水場の掃除 ← 野鳥への給餌 → ●水草植えつけ (オモダカ、ホテイアオイなど) ●巢材の用意 (シュロ、毛糸、水ゴケ、犬の毛など) ← ヒマワリなど種まき → ← 落葉花木のお礼肥え → 落葉樹さし木 (休眠枝さし) ← 生垣の刈り込み → ← 落葉樹の植えつけ、移植 → ← 常緑広葉樹の植えつけ、移植 → ← 樹木の防寒策 → ← カラタチ → フジ(ノダフジ) テイカカズラ スイカズラ ミカン ユズ ハッサク ハリエンジュ(ニセアカシア) ノイバラ タイサンボク ← スイートピー →			管理のこよみ
ウメ オガタマノキ フリージア スイセン			香りのある植物のこよみ
5 月	4 月	3 月	

夏		
	●アオマツムシ鳴き始める	マダラスズ、シバズズ鳴き始める●
	●セスジツユムシ現れる	●カネタタキ鳴き始める
	●エンマコオロギ鳴き始める	●バッタ類の幼虫目立つ
← トンボ類目立つ →	●アキアカネ羽化	アジアイトトンボ現れる●
	●ヒグラシ鳴き始める	
	●アブラゼミ鳴き始める	
← アゲハチョウ類目立つ →	●ミンミンゼミ鳴き始める	アゲハチョウ類夏型現れる●
← アマガエル鳴く →		●シジュウカラ二番子巣立つ
← ガの好む夜の花が咲く →		
← 水場の水質、水位、水温管理 →		
		← 巣立ちビナをそっと見守る (ヒヨドリ、スズメ、カラスなど)
← 草木への水やり →	← さし木 (梅雨ざし) →	
	← 生垣の刈り込み →	
		← 常緑広葉樹の移植
	← クチナシ →	
← オシロイバナ →		
← マツヨイグサの仲間 (夜間) →		
← クサボケ (果実) →		
← クズ →		
← クサギ →		
← カラスウリ (夜間) →		
		← ボダイジュ →
8 月	7 月	6 月

秋			
11月	●コオロギ声少なくなる ●アリ越冬に入る ●イラガのまゆ、ミノムシ目立つ	←コオロギの鳴き声をよく聞く→ 庭に高原のチョウが訪れる(ルリタテハなど) ●ウラナミシジミ現れる ●アブラコウモリ越冬に入る ●イチモンジセセリの群現れる ●各種生物越冬に入る ●ヒメアカタテハ、キチョウ現れる ●アカアカネの群現れる	自然の動き
	●ジョウビタキの冬のなわばり決まる ●ツグミ現れる 冬鳥飛来 渡り鳥通過(オオルリ、エゾビタキなどヒタキ類) ●イチョウ黄葉 ●キノコ類豊富 ●カエデ紅葉 ハクセキレイの群が街路樹などをねぐらにする	●ジョウビタキ現れる モズ高鳴き始める 8月中旬から シギ、チドリ類通過 ●シジュウカラの群現れる ●カキにムクドリなどが来始める ●サザンカの花にメジロが蜜を吸いにくる ●ヒガンバナ開花	
10月	●給餌台の用意と給餌の開始(4月まで) ●冬期給餌用のくだものの確保(カキ、リンゴ、ザクロなど) ●昆虫類越冬用わらまき ●昆虫類繁殖、越冬用に竹筒を束ねる ●ヒキガエル、トカゲ用の石積み、そだ置き	ヒマワリなどの種子取り入れ(餌用、種まき用) ●コウモリ用巣箱の用意 ●巣箱の掃除(シジュウカラ、ムクドリなど) 生垣の刈り込み 常緑広葉樹移植 台風対策(支柱など)	管理・こよみ
	●園芸店で実ものが販売される(ピラカンサ、ムラサキシキブなど)		
9月		キンモクセイ オシロイバナ マツヨイグサの仲間(夜間) クサボケ(果実) クズ クサギ カラスウリ(夜間)	香りのある植物のこよみ
	ヒイラギ カリン(果実)		
11月	10月	9月	

冬		
夕方、カラスがねぐらへ帰るのが見られる スズメの群目立つ ムクドリの大群目立つ ●ウグイス初鳴き ●ムクドリ巣争い ●庭にくる小鳥類が増える ●レンジャクなどの冬鳥が市街地に現れる ●モズ高鳴き終わる● 鳥の好きな木の実目立つ (ナンテン、ピラカンサ、アオキ、ムラサキシキブ、ウメモドキなど) ●鳥がピラカンサ、ムラサキシキブの実を食べつくす ●タネツケバナ開花 ●ハコベ開花 ●セイヨウタンポポ開花 ●ツバキ開花 ●寒梅開花 ●ロウバイ開花 ●水がはる ●霜が降りる		
3月末まで	水場の凍結防止	食物の不足する時期、えさを欠かさずに
給餌台の雪対策	寒肥え	落葉樹の剪定、整枝 (巣をつくりやすくするため) 落葉集め腐葉土づくり
樹木の防寒策(根元に敷きわら、土寄せなど)		生垣の刈り込み(浅め) 落葉樹の移植 落葉果樹の植えつけ
ウメ		
オガタマノキ		
フリースター		
	スイセン	
2 月	1 月	12 月